

2026年6月2日

各位

会社名 シンバイオ製薬株式会社  
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 吉田 文紀  
(コード番号: 4582)  
問合せ先 IR室 (TEL.03-5472-1125)

**EBウイルス関連胃がんに対する布林シドホビル (BCV) と  
免疫チェックポイント阻害薬との併用の有効性のデータ  
米国臨床腫瘍学会 (ASCO 2026) で発表**

BCVは免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) の有効性指標であるPD-L1の発現を高め、  
ICIとの併用で高い効果をもたらすことを強く示唆

シンバイオ製薬株式会社 (以下、シンバイオ製薬) は、布林シドホビル (brincidofovir、  
BCV) のEBウイルス関連胃がんに対する治療効果について有望な研究成果に関して、2026年  
5月30日、米国臨床腫瘍学会 (ASCO 2026、米国・シカゴ) で発表したことをお知らせしま  
す。

BCVに関して、このたび発表した前臨床研究の知見は次の通りです。

- ・ 細胞を用いた実験で、BCVはEBウイルス陽性の胃がん細胞を効果的に破壊 (傷害) した
- ・ EBウイルス陽性の胃がん細胞に対して免疫作用の効果を高める因子をBCVが誘導した
- ・ 動物実験においてBCVと免疫チェックポイント阻害薬との併用が腫瘍増殖を強く抑制す  
ることを確認し、それぞれ単独による効果を上回った

以上の研究成果は、BCVと免疫チェックポイント阻害薬の併用療法がEBウイルス関連胃がん  
の新たな治療選択肢となる可能性を示しています。

発表者のトランスレーショナルリサーチ部長 神谷哲 医師・医学博士のコメントです。

「現在、免疫チェックポイント阻害薬の併用薬としてシスプラチンが標準療法として使用  
されています。しかし、シスプラチンには腎毒性や骨髄毒性があり、BCVはこれらの毒性が  
ないことから、将来、BCVがシスプラチンに代わり併用薬として使われる可能性がありま  
す。」

以上

## 注記

### (注1) EBウイルス関連胃がん (EBVaGC) について

胃がんは世界で年間約100万人が発症する主要ながんの一つで、そのうち約10%がEBウイルス感染に関連しているとされており、世界で年間約9万人、日本国内で年間約1万3千人が発症すると推定されています。現在、EBVaGCに特異的な抗がん療法は未だ確立されていません。

EBVaGCはウイルスが腫瘍細胞内で持続感染することに伴い発生する胃がんのサブタイプで、EBウイルス由来の遺伝子発現が発がんに関与しているだけでなく、宿主（患者）の免疫応答にも強く影響を及ぼしています。EBVaGCは単なる臨床病変の一つではないため、その分子メカニズムや免疫学的特性の理解が、効果的な治療方法の開発にとって重要と考えられています。

シンバイオ製薬では、今回の前臨床研究で得た知見を今後のBCVの臨床開発に生かしていきます。

### (注2) 米国臨床腫瘍学会 (ASCO) について

ASCOは1964年に設立され、世界150カ国以上から5万人以上の会員を擁する、がん治療と研究の分野で最も権威ある国際学会です。年次総会では、最新のがん治療研究成果が発表され、世界中の臨床腫瘍医、研究者、医療従事者が最新知見を共有します。

### (注3) 発表演題の概要

- ・ 演題タイトル： Preclinical efficacy of the anti-EBV agent brincidofovir (BCV) in EBV-associated gastric carcinoma (EBVaGC). (和訳：EBウイルス関連胃がんに対する布林シドホビルの前臨床試験における有効性)
- ・ 発表者： Tetsu Kamitani
- ・ 抄録番号： 4028
- ・ 発表ポスター： このQRコードを通じて取得したポスターのコピーは、個人使用にのみ許可されています。また、ASCOあるいは著者の書面による許可なく複製することはできません。



## 3本の治療領域を柱としたBCVの事業戦略

シンバイオ製薬は2019年9月、BCVのグローバルライセンスを取得して以来、3つの治療領域において、そのポテンシャルを掘り起こすことを目的として世界最高レベルの研究機関と共同研究を進めてきました。現在、対象疾患領域として、第1の柱である移植後ウイルス感染症領域をはじめ、第2の柱として血液がん・固形がん領域、第3の柱として脳神経変性疾患領域の3治療領域を中心に経営資源を集中して開発を進め、グローバルに事業展開をすることによりBCVの事業価値の最大化を目指しています。